

## 草木染めを始めたら むらは宝物でいっぱいだった

白い布がみるみる紫に。辺りは赤飯を炊いたような米のいい香りだ。「紫米はほんとにいい色だなー」と目を輝かせるのは御年88歳の坂田悦男さん。草木染めを通して、それまでなんとも思っていなかった雑草や雑木まで宝物に見えてきたという。そんな坂田さんの工房を訪ねた。

長野県大町市・信州草木染 木崎工房

写真||尾崎たまき

文||編集部